

令和2年度 学生による地域活性化プログラム

鯉江康正ゼミナール 活動報告書

まちの情報発信拠点「まちの駅」の 認知度アップに向けて



05

令和2年度

ごあいさつ



長岡大学 学長 村山 光博

長岡大学の「学生による地域活性化プログラム」は、3、4年次の専門ゼミナールに所属する学生グループが、地域の課題解決や魅力創出に向けた調査研究と具体的な取り組みを行うことにより、学生の職業人としての基礎的能力の向上と地域活性化への貢献を目指すプログラムです。本プログラムは、平成19（2007）年度の導入から現在まで十数年に渡り継続し、発展してきた本学の特徴的な教育プログラムの一つであるとも言えます。最近では、取り組みの中心である学生の諸活動を新聞やテレビ、ラジオ等のメディアでも取り上げていただく機会も多くなりました。また、これまで本プログラムの運営に多大なご協力をいただいていた地域連携アドバイザーをはじめ地域の多くの皆様から、各取り組みテーマへのお問い合わせや激励のお言葉をいただいております。長きにわたりこの取り組みを続けて来られたのは、ひとえに地域の皆様の暖かいご支援とご指導の賜物と、心より感謝申し上げます。

「地域活性化とは何か」という問いに対する明確な答えを述べることは難しいと思いますが、本プログラムでは、答えの無い様々な地域課題に対して、それらの課題の原因をどのように捉え、どのように行動を起こして対応して行くのかを学生が自ら体得することができます。本学を卒業後に地域社会の一員となる学生が、将来このような地域課題に対して日々取り組むことになると考えると、これらの体験は彼らにとって大変貴重なものとなることでしょう。

本プログラムでは、各ゼミナールで設定したテーマの下で学生グループが活動を進めて行くこととなりますが、時には学生同士のちょっとしたすれ違いや一緒に活動する地域の大人たちとの意見の食い違い等が起きることもあります。このような体験も学生がさらに一歩、人として成長するためのきっかけとなります。ゼミで決めたテーマをまとめ上げるために、どのように他者とかわりながら取り組みを進めて行くべきなのか、この取り組みの中で自分の役割は何であるのか、などを考えながら活動を行っていくことで、チームで活動することの難しさだけでなく、チームで目標に向かって何かをやり遂げることの充実感や達成感を味わうことができます。

長岡大学の「学生による地域活性化プログラム」では、学生が地域に飛び込んで地域の皆様と一緒に汗をかき、考え、そして楽しむ中から、目先の地域貢献活動だけでなく、将来にわたって地域の活性化を担っていく事のできる人材の育成を目指しております。本学の建学の精神は、「幅広い職業人としての人づくりと実学実践教育の推進」と「地域社会に貢献し得る人材の育成」です。本プログラムは、まさにこの精神を実現するための中核となる教育プログラムであると言えます。

令和3年3月



長岡大学は、文部科学大臣の認証を受けた『公益財団法人日本高等教育評価機構』により、平成28年度大学機関別認証評価を受審し、平成29年3月7日、日本高等教育評価機構が定める大学評価基準を満たしていると「認定」されました。

はじめに

まちの情報発信拠点「まちの駅」の 認知度アップに向けて



長岡大学教授／ゼミ担当教員 鯉江 康正

人口減少が進む新潟県内において、各自治体は地域社会を維持・継続させるために、防災対策、少子高齢化対策、産業振興策、教育・文化に関する政策、地域振興・まちづくり政策など様々な施策を実施しているが、その効果は限定的と言わざるを得ないのが実状である。そのような状況下において、外的な力で活性化を図ることは、一時的には効果が期待できるが、長期的な観点からは地域内部での自発的な協調・協力こそが地域を支える力となるものと思われる。以上のような考えのもと、鯉江ゼミでは平成 19 年度から「まちの駅」の紹介、まちの駅が関係するイベントに参加してきた。学生が提案した「まちの駅 長岡大学」としての社会への貢献として、トイレを貸すことはもちろん、図書館や学食の市民利用も可能となっている。高齢化が進み、商店街が疲弊していくなかで、学生が地域イベントには欠かせない集団となりつつあると自負している。

「まちの駅」は人と人の出会いと交流をサポートするまちの情報発信拠点であり、平成10年からネットワークが作られ、現在全国に約1500駅ができています。今年度はコロナ禍の影響で、昨年度まで行ってきた、「まちの駅」関連のイベントが軒並み中止となっており、活動が思うようにできない日々を送ってきた。そのような状況下で、懸案であった「まちの駅」の認知度の低さをどのようにしたら解決できるかを探る目的で、認知度アンケート調査＜調査活動＞を行い、認知度を上げる方策を検討＜情報収集活動＞し、ゼミとしてできる情報発信を実現＜発信活動＞してきた。これまで、ゲリラ的にイケイケ方式で活動してきたが、この＜調査＞＜情報収集＞＜発信＞という「3つの軸」に沿って活動を行った今年度のゼミ活動は十分に評価できる。＜調査活動＞では学内向けアンケート調査に加え、より広く意見を求めるために一般市民向けアンケートも実施した。また、＜情報収集活動＞では新たに開設された新駅へのヒアリングやボランティアにも参加した。この活動を通じて、駅長さんや地域の方々の抱える問題点や課題を把握し、その原因を究明して、それに対応する方策を検討した。さらに、＜発信活動＞としてパネル展の実施、まちの駅の1分間CMの作成、Instagramによる広報活動、外国人向けのパンフレットの作成、ウェブページの更新を行った。次年度の活動も考えており、起点となる活動ができたと考えている。

10年を超す長い活動を通して、学生が得てきたものは、「自分たちがこれまでやってきた活動に自信を持ち、それを伝える」ことが大切で、「地域活性化活動はやらされているのではなく自分たちから楽しんでやる」ことであるということであった。繰り返しになるが、少子高齢化が進み人口減少が避けられない地域において、地道な活動こそが地域を支え、真に豊かな「まち」を形成できる第一歩であると私は考えている。本報告書はそれをまさに実践した活動報告である。

令和3年3月

鯉江康正
ゼミナール

まちの情報発信拠点「まちの駅」の 認知度アップに向けて



【参加学生】 14名(4年生9名、3年生5名)

4年生 Enkhbat Solongo、大竹一輝、小林萌香、小山陸、智野虎太郎

沼沢純子、陽凱楓、Bayarkhuu Tugsbold、Altanchimeg Delgermaa

3年生 赤塚倫子、木下歩美、坂元明日香、李智超、Nyamaa Baljinnyam

【アドバイザー】

全国まちの駅連絡協議会 関東甲信越運営幹事

中川一男 氏

NPO 法人市民協働ネットワーク長岡 コーディネーター

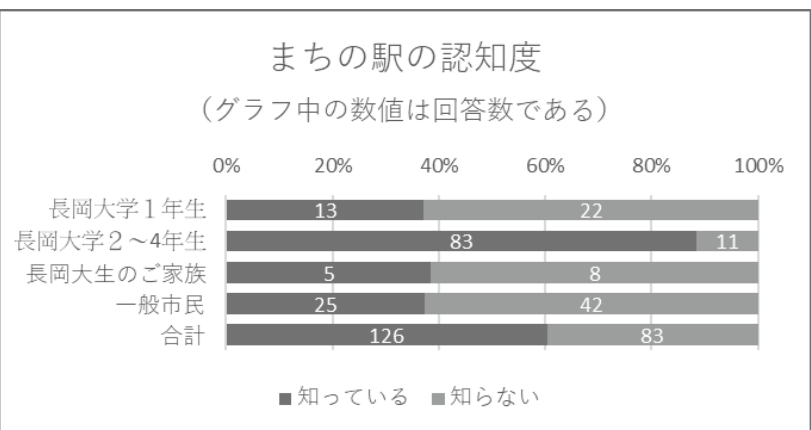
太田道子 氏

1. 目的と活動概要

本取組の目的は、タイトルにあるように、「まちの駅」の認知度を上げて、地域を活性化することにある。そのために、令和2年度は<調査活動><情報収集活動><発信活動>という3つの軸に沿って活動をしてきた。

2. <調査活動>

<調査活動>ではまちの駅認知度アンケート調査を実施した。具体的には、本学学生向けアンケートと一般市民向けアンケートを実施し、予想通りまちの駅の認知度は高くないことが明らかとなった。また、SNSの利用頻度が高いこともわかった。



3. <情報収集活動>


<情報収集活動>では新たに開設されたまちの駅へのヒアリングやボランティア活動に参加した。ヒアリングの結果、まちの駅間の情報共有不足、本業との両立の難しさなどの課題を抽出できた。また、ボランティア活動を通して、地域の交流の場としてのまちの駅の存在価値を認識することができた。



4. <発信活動>

<発信活動>として、「まちの駅パネル展」「まちの駅1分間CMの作成」「Instagramによる広報活動」「ウェブページの更新」「外国人向けパンフレットの作成」を行った。





まちの駅

まちの駅 (machinoeki) 分布在日本全国各地。其中新潟県 (Niigata 県) 设有 129 处。

まちの駅是为了促进人与人之间相遇与交流的设施。为了促进地域活性化会联合其他的まちの駅一起举行各种各样的活动。

まちの情報発信拠点「まちの駅」の認知度アップに向けて

鯉江ゼミナール

- 17k022 エンヘバト・ソロンゴ
- 17k026 大竹一輝
- 17k050 小林萌香
- 17k055 小山陸
- 17k080 智野虎太郎
- 17k090 沼沢純子
- 17k116 陽凱楓
- 17k310 バヤルフ・トゥゴスボルド
- 17k401 アルタンチメグ・デルゲルマー
- 18k001 赤塚倫子
- 18k033 木下歩美
- 18k049 坂元明日香
- 18k118 李智超
- 18k304 ニマー・バルジンニヤム

目 次

1. 調査・研究の目的	1
1.1 活動フロー	1
1.2 本報告書の構成	2
2. 「まちの駅」の概要と過年度の鯉江ゼミナールにおける調査・研究活動の概要	2
2.1 「まちの駅」の概要	2
2.2 過年度の鯉江ゼミナールにおける調査・研究活動の概要	5
3. 「調査」活動について	6
3.1 経緯	6
3.2 調査設計と回収結果	7
3.3 調査結果の比較	8
3.4 調査活動のまとめ	14
4. 「情報収集」活動について	15
4.1 ヒアリング・パネルの作成	15
4.2 地域貢献活動	28
4.3 情報収集活動のまとめ	30
5. 「発信」活動について	31
5.1 まちの駅パネル展	31
5.2 まちの駅1分間CM	32
5.3 Instagram による広報活動	33
5.4 外国人の方向けのパンフレット作成	35
5.5 成果発表会	39
5.6 ウェブページの更新	40
5.7 発信活動のまとめ	41
6. まとめ	42
6.1 「三つの軸」の成果	42
6.2 来年度の活動	42
謝辞	43
参考文献	43

1. 調査・研究の目的

令和2年12月18日現在の新潟県内の「まちの駅」の開設数は、129駅であり昨年度より2駅減少した。県内の主要なネットワークは、越後長岡まちの駅ネットワーク（52駅）、まちの駅ネットワークみつけ（45駅）、まちの駅ネットワーク糸魚川（10駅）、まちの駅ネットワークごせん（5駅）であり、それ以外にも個人・法人が独自に開設しているまちの駅がある。

昨年度の鯉江ゼミナールでは、『「まちの駅」から地域の魅力を発信し、地域を盛り上げたい！』をテーマとして、新潟県のまちの駅の調査・研究と地域活性化活動を行った。今年度は、『まちの情報発信拠点「まちの駅」の認知度アップに向けて』をテーマとして調査・情報収集・発信の3つの活動を行った。その目的は、まちの駅の認知度の実態を把握し、課題を明確化することでより効果的な広報活動から「まちの駅案内人」による地域情報の発信をサポートし、もてなしの地域づくりをネットワーク化することである。

1.1 活動フロー

今年度は、まちの駅の認知度の低さに着目し、「調査」・「情報収集」・「発信」の3つを軸に活動を行った。

1.1.1 「調査」

調査では、まちの駅の認知度の実態を可視化し、その状況を把握することを目的にアンケート調査を実施した。長岡大学の学生494名とそのご家族を対象とした学生メールによる実施とアオーレ長岡で一般の方を対象とした聞き取り調査を実施した。

1.1.2 「情報収集」

情報収集では、まちの駅の認知度アップを図ることと個々のまちの駅の現状と活動実態の把握を目的に、今年度新しく開設された見附市4駅、五泉市1駅の合計5駅のまちの駅にヒアリング活動を行い、その内容からパネルを作成した。また、昨年度に引き続きアオーレ長岡で開催された「はなはす展示」、ネーブルみつけで開催された「みつけ MADE ファッションフェア」のボランティア活動を行った。

1.1.3 「発信」

発信では、まちの駅の魅力発信と認知度を上げることを目的に、例年行っているパネル展と1分間CMに加えて、今年度から新たな試みに挑戦した。

パネル展は、11月にながおか市民協働センターと長岡大学の保護者会で開催した。1分間CMは、「まちなか酒の駅」と「まちの駅あんとや」の2駅で1月に制作し、さらに、今年度中に「越後長岡酒と味の駅」と「まちの駅伊丹」、「まちの駅 JAZZ 楽」、「栃尾まちの駅とちパル」の4駅を制作する予定である。

新たな試みでは、2020年9月に鯉江ゼミナール公式インスタグラムのアカウントを開設し、10月7日からSNSを活用した私たちの活動とまちの駅の紹介を行った。さらに、留学生を中心に既存のまちの駅のパネルからモンゴル文字とキリル文字を組み合わせたモ

ンゴル語版のパネル作成も行った。また、日本語版とモンゴル語版、中国語版の3種類のまちの駅を紹介するパンフレットの作成も行った。

1.2 本報告書の構成

第1章では、今年度の調査・研究活動について、その概要を紹介する。

第2章では、「まちの駅」の概要、過年度5年間の鯉江ゼミナールにおける調査・研究活動の概要について紹介する。

第3章では、「調査」の活動について詳しく紹介する。

第4章では、「情報収集」の活動について詳しく紹介する。

第5章では、「発信」の活動について詳しく紹介する。

第6章では、今年度の活動成果と来年度の活動に対する展望を述べ、とりまとめとする。

2. 「まちの駅」の概要と

過年度の鯉江ゼミナールにおける調査・研究活動の概要

2.1 「まちの駅」の概要

本節では、「全国まちの駅連絡協議会 まちの駅 (<http://www.machinoeki.com/>)」(文献1)を参考に「まちの駅」が備えるべき機能、施設等の要件を整理しておく。

2.1.1 まちの駅の定義と機能

まちの駅は必ずしも新設のものである必要はなく、既存施設の活用により、市町村、NPO、団体等が地域連携を目指しネットワークを図ることを原則とし、様々な運営主体、施設内容、規模、運営形態を持ったまちの駅が、共存することを想定している。したがって、市町村という行政域を超えた連携を目指して、地域住民や来訪者が求める地域情報を提供する機能を備え、人と人の出会いを促進する施設である。また、まちづくりの拠点となり、まちとまちをつなぐ役割を有するものであり、以下の機能を備えるものである。

- ☆ 誰でもトイレが利用でき、無料で休憩できる機能（休憩機能）
- ☆ まちの駅案内人が、地域情報について丁寧に教える機能（案内機能）
- ☆ 地域の人と来訪者との、出会いと交流のサポートをする機能（交流機能）
- ☆ まちの駅間でネットワーク化し、もてなしの地域づくりを目指す機能（連携機能）

2.1.2 名称およびシンボルマーク

3つの山のようなマークは「人」を表す。一つ目の山は「よそ者」、二つ目は「ばか者」、三つ目は「わか者」を表している。真ん中の「i(アイ)」は、インフォメーションを表している。つまり、このマークは「いろいろな人が集まり、出会いが生まれ、まちや地域のことを教えてくれる人がいる場所」を意味している。まちの駅は、このマークの本来の意味を保つためにも、人同士・駅同士の「交流」が何よりも大切である。

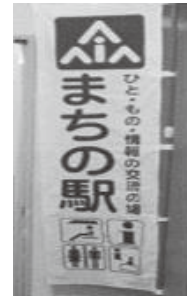


まちの駅のマーク

各まちの駅は、その理念を共有した上で、地理的条件、運営目的などに応じて、個性ある名称を付けるようにしている。ただし、全国共通のシンボルマークを併記することが必要である。全国共通のシンボルマークは「まちの駅連絡協議会」に入会したもので、かつ一定以上の条件を具備した施設に使用が認められている。

2.1.3 看板の設置

各まちの駅は、前項のまちの駅相互の連携を保ち、利用者の信用を確保するために、一定の規格に沿った共通シンボルマークを表示した看板を設置することが義務付けられている。その規格等は、別に定めた「シンボルマーク仕様・看板設置マニュアル」に従うこととなっている。



まちの駅ののぼり

2.1.4 連携・支援

まちの駅は、相互で連携・支援し合うことを基本として、これらを促進するために各地の状況に応じて連携支援事項を申し合わせることになっている。「道の駅」などとの関係においては、特に形式的に区別せず、相手との協議に応じて、共存、連携していくことが進められている。

2.1.5 人の配置

まちの駅には、「もてなしの心」を持った人を常駐させることが必要であるが、他の職務との併任でも構わない。案内人は、まちや隣接市町村などに関わる知識を習得するように努めることとされている。まちの駅運営者は、案内人が積極的に研修を受けられるようにするとともに、他の地域を含む案内人同士の交流の機会を作ることに努めることとされている。まちの駅連絡協議会主催の全国大会や研修会、その他地域大会が開催される場合は、可能な限り派遣に努めることも必要である。

2.1.6 設備・備品・サービス

まちの駅に必要な最低限レベルの設備・備品・サービスは以下の通りである。

- ☆ まちの駅の看板（のぼり、シール等でもよい）
- ☆ 利用者が休憩できるスペース、椅子など
- ☆ トイレ（障害者も利用可能なものが望ましい）
- ☆ まちおよび周辺の情報

2.1.7 共通情報の整理、提供

まちの駅は、道路交通、地図情報、地元情報（観光、イベント、文化、歴史、住民活動等）、緊急時の対応などに関わる情報を常備することが必要とされている。

2.1.8 登録

まちの駅として登録を受けるためには、別に定める認定申請書に必要事項を記入の上

「まちの駅連絡協議会事務局」に提出しなければならない。「まちの駅連絡協議会」役員会で、まちの駅の要件を欠くと判断した場合には、具体的な問題点を当該まちの駅に文書で通知することとなっている。通知を受けたまちの駅は早急に改善しなければならない。改善が図られない場合には、速やかに退会届を提出することとなっている。

2.1.9 報告

まちの駅に携わる者は、相互の運営およびまちの駅の全国レベルでの運営戦略展開に資するために、所定の項目について、電子メール等を活用し、定期的に情報交換を行うこととなっている。報告項目については、まちの駅のホームページで紹介される。

2.1.10 全国組織

全国共通に実施することについては、「まちの駅連絡協議会」において定めることとし、その規定に従うことになっている。

2.1.11 道の駅とまちの駅の違い

「まちの駅」と「道の駅」を混同している方が多いというのは、各地からよく聞かれる声である。文字と違って、発音が似ているので聞き間違いやすいことも一因と考えられる。

「道の駅」は、①休憩機能②情報発信機能③地域連携機能の3つを併せ持った公共施設である。利用者が無料で24時間利用できる十分な容量を持った駐車場や清潔なトイレがあることなどの登録要件とともに、設置者が「市町村または市町村に代わり得る公共的な団体」と定められている。

国土交通省のホームページ（文献2）では、「道の駅」の沿革として「平成3年10月～4年4月「道の駅」を実験（山口県、岐阜県、栃木県）」としか記載されていない。それは、「道の駅」の社会実験は国が行ったのではなく、地域交流センターが事務局となって、地元自治体や各種団体メンバーで協議会を組織して実施したものであるからである。仮設の「道の駅」を設置して約1ヶ月の利用状況を検証した。その実験結果を受けて、建設省道路局により「道の駅」の共通コンセプトが整理され、平成5年に「道の駅」は制度化された。それから27年が経ち、全国各地に「道の駅」の設置が進められ、令和2年7月時点で1,180駅が登録されている。「道の駅」の発想は、平成2年1月に地域交流センターが中心となって広島で開催した「中国・地域まちづくり交流会」の中で山口県の船方農場代表の坂本多旦氏が、「道路にも鉄道の駅のような施設があっても良いのではないか」と発言されたことに始まる。そこで、参加者の賛同を得て、道路沿いに「駅」を作る実験事業が始まった。トイレに困った体験がきっかけなので、「道の駅」にはトイレが必須の設備になった。一方、「まちの駅」は①休憩機能②案内機能③交流機能④連携機能の4つの機能を持ったたまり場である。コンセプトは「道の駅」とあまり変わらないが公共機関に限らず民間商店やNPO等でも設置・運営できる点が大きく違う。「全国まちの駅連絡協議会」が認証しているといっても条件は緩くして駅長になる方の地域や人を思う気持ち、「おもてなし」の心を大切にしている。そのため個人商店や小規模施設から大型店舗や企業の工場、多機能施設など多種多様な主体が施設（の一部）を休憩&交流スペースとして開放し、

「まちの駅」となっている。「まちの駅」をきっかけに思いを持った人同士がつながり、緩やかなネットワークが形成されている。

「道の駅」は、公共インフラとしての物理的作用により人々の利便性を高め、社会を支える機能も拡張している。一方の「まちの駅」では、街なかの様々な人々の出会いと語りの中から人間関係の化学反応が起きて地域を変える力になっていくことが期待されている。両者の違いから「道の駅」として登録された施設が地域内外の交流・連携を求めて、まちの駅ネットワークに参加する例も増えてきている。

2.2 過年度の鯉江ゼミナールにおける調査・研究活動の概要

本ゼミでは、平成 19 年度より「まちの駅」をテーマに調査・研究活動を行ってきた。最近 5 年間の活動概要は以下のとおりである。なお、平成 19 年度から平成 26 年度の活動概要については、文献 3 を参照されたい。

〈平成 27 年度〉

平成 27 年度は、新潟県内に新たに開設された糸魚川、三条、上越、越路、新潟（各 1 駅）の 5 駅と、長岡市の組織変更により変更があった「ながおかまちの駅」の合計 6 駅をヒアリング調査し、パネルを作成した。

また、昨年度の成果発表会でアドバイザーの方から依頼された「各まちの駅がどのようなおもてなしをしているのかを調査し、各まちの駅の今後の活動の参考になるような情報を提供してほしい」に対応するため、新潟県内 127 のまちの駅に「おもてなし事例調査」を実施した。調査の目的については、まちの駅になって良かったと思うこと、自分のまちの駅の駅長さん自身でこれからどのような行動をしたらよいかを知ることである。

なお、有効回収数は 82 駅であり、回収率 64.6%であった。調査の結果、各まちの駅は、基本的な機能を果たしながら、来られたお客様に「おもてなし」の心で対応していることが分かった。

〈平成 28 年度〉

平成 28 年度は、『「まちの駅」をフィールドとした、活動等による地域活性化活動への貢献』をテーマとして、新潟県内まちの駅の調査・研究と地域活性化活動（ボランティア）を行った。

まちの駅の調査・研究では、長岡 19 駅、見附 12 駅、糸魚川 2 駅、新潟 2 駅、魚沼 1 駅、五泉 1 駅、の合計 37 駅のまちの駅のヒアリング及びパネルの更新を行い、学園祭やアオーレ長岡市民共同センターで展示、ホームページで掲載を行った。

地域活性化活動（ボランティア）では、まちの駅を通じて地域イベントへ参加した。また、まちの駅全国フォーラム in Tokyo、新潟県内まちの駅交流会にて各まちの駅の方々と意見交換を交えた交流を行った。

〈平成 29 年度〉

平成 29 年度は、新潟県内まちの駅の調査・研究と地域活性化活動を行った。その他に

まちの駅の情報発信活動として、まちなかキャンパス長岡子ども講座こどもカフェや株式会社ユアテック技術センター中越地区安全協議会第 27 回安全大会へ参加し本ゼミナールの活動発表を行った。もう一つのテーマでは「まちの駅」から越路地域の魅力発信を行った。越路地域の全 7 駅のまちの駅と連携し、越路まちの駅マップを作成した。作成したマップをもみじ園のイベントや悠久祭のパネル展で配布し、越路地域の魅力発信ができた。

〈平成 30 年度〉

平成 30 年度は、新潟県内のまちの駅の紹介パネルの作成・更新、地域行事のボランティアを行った。この他に、まちの駅の情報発信活動として FM ながおかのラジオ番組「長大生と行く！まちの駅ヒアリング GO！！」を制作した。そして「第 21 回まちの駅全国大会 in 会津」に参加し、各地のまちの駅の現状・課題について意見を交わした。同時に本ゼミナールの活動発表も行った。また栃木県鹿沼市にある「まちの駅ネットワークかぬま」の方々を長岡市の越路地域に招待し、越路地域の観光スポットをご案内した。

〈令和元年度〉

令和元年度は、昨年度に引き続き新潟県内のまちの駅の紹介パネルの作成・更新、悠久祭で模擬店とパネル展を行った。さらに、まちの駅を通して様々な地域イベントへの参加やまちの駅 1 分間 CM の作成、越路マップの改定、新潟県内のまちの駅交流会の企画・運営から地域活性化活動に取り組んだ。また、「まちの駅&どまいち 春の物産フェア」、「とうきび観音まつり」、「今町まちなかマルシェ」、「はなはすの水やり」、市民協働ネットワーク長岡の方からご依頼を受け、「ながおか市民活動フェスタ」の合計 5 つのボランティア活動の協力を行い、地域を盛り上げた。

3. 「調査」活動について

調査活動として、本学学生と保護者を対象とした「まちの駅についてのアンケート」と一般の方を対象とした「まちの駅についてのアンケート」を実施した。

3.1 経緯

今年度のゼミナールでは、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて予定されていた「まちの駅」のイベントが軒並み中止となってしまう、鯉江ゼミナールでも前期の期間は学外の活動ができなかった。そのためゼミナール生内で学内で実施できる活動について意見を出し合った結果、「まちの駅」の認知度の低さについて着目することにした。昨年までの「まちの駅」の活動をする中で、一般の方にまちの駅のことを全く知らない方が多くいた。毎年度私たちは「まちの駅」から地域活性化を目指して活動していたが、その最初の段階であるまちの駅の認知がされていないのはよいことではない。私たちはまず、まちの駅の認知度は低いという仮説を立て、その事実を確かめるべくアンケートを実施することに決定した。

はじめに身近である長岡大学の学生とその家族にアンケートをとり、一般の方の認知度も把握したいことから街頭での調査も実施した。

3.2 調査設計と回収結果

3.2.1 まちの駅に関するアンケート調査（長岡大学生及びそのご家族調査）

(1) 調査対象

長岡大学生とそのご家族を対象とした。

(2) 調査方法・調査期間

学生には Google ドライブを利用したアンケートを配信し、ご家族には学生からそれを再配信してもらう方法を採用した。調査期間は 2020 年 8 月 4 日～16 日までである。

(3) 調査対象者と回収数

長岡大学生 494 名にアンケートを配信し、回収数は 129 票（回収率 26.1%）であった。ご家族からの回収数は 13 票であった。合計回収数は 142 票である。

3.2.2 まちの駅に関するアンケート調査（一般の方調査）

(1) 調査対象

アオーレ長岡を訪れた一般の方を対象とした。

(2) 調査方法・調査期間

アオーレ長岡を訪れている方に学生が声をかけ、学生がした質問に答えていただき学生がそれを記入するという方法で行った。期間は 10/28,10/29,11/1,11/2,11/3 の五日間で行った。

学年	参加学生
4 年	大竹一輝、小林萌香、小山陸、智野虎太郎、沼沢純子
3 年	赤塚倫子、木下歩美

(3) 回収数

合計回収数は 67 票である。

3.2.3 調査項目

2つのアンケートの調査項目は以下のとおりである。なお、各問には 1～6 の設問が設定されている。

- 問 1 回答者の属性（性別、所属、留学生・日本人の別、居住地、居住形態）
- 問 2 「まちの駅」の認知度と利用について
- 問 3 「まちの駅 長岡大学」と鯉江ゼミの活動に関する認知度について
- 問 4 地域の情報収集の方法について
- 問 5 SNS の利用について
- 問 6 まちの駅や本アンケートに関するご意見（自由回答）

3.3 調査結果の比較

ここからはそれぞれのアンケートを比較し、気になった点を5点紹介する。以下「まちの駅に関するアンケート調査（長岡大学生及びそのご家族調査）」は「学生向けアンケート」、「まちの駅に関するアンケート調査（一般の方調査）」は「一般向けアンケート」と表記する。

1点目は、この調査の本題である「まちの駅」の認知度についてである。「まちの駅を知っていますか。」という設問の結果については以下のとおりである（表3-1および表3-2参照）。

まちの駅を「知っている」と回答した人が、学生向けアンケートでは71.1%だったのに対し、一般向けアンケートでは37.3%にとどまった。結果に差がついた原因として、長岡大学生は毎年度の鯉江ゼミナールの発表を聴き、まちの駅について名前は聞いたことがあるということが推測できる。これは、まだ成果発表会を見ていない可能性が高い1年生と家族、発表会に参加している2年生より上の学年とを比べれば明らかである。その他にも長岡大学そのものがまちの駅ということもあり、自然と学生向けアンケートは認知度が高くなったと考えられる。1年生と家族だけの回答の「知っている」の割合は37.5%となり、一般アンケートの割合ととても近くなる。

これにより、バイアスのかかっていないまちの駅の一般的な認知度は半分以下と言える。一般のアンケートを行った際に、まちの駅を道の駅と誤解される方も少なくなかったこともあり、まだまだ認知度は低いと考えられる。地域の魅力を発信するまちの駅の存在をより多くの人々に認知してもらうために、様々な活動を積極的に行っていこうと思った。

表3-1 問2①「『まちの駅』を知っていますか。」
集計結果（学生向けアンケート）

	1. 知っている	2. 知らない	総計
1. 長岡大学1年生	13 37.1%	22 62.9%	35 100.0%
2. 長岡大学2年生	33 82.5%	7 17.5%	40 100.0%
3. 長岡大学3年生	28 90.3%	3 9.7%	31 100.0%
4. 長岡大学4年生	22 95.7%	1 4.3%	23 100.0%
5. 長岡大学生のご家族	5 38.5%	8 61.5%	13 100.0%
総計	101 71.1%	41 28.9%	142 100.0%

表3-2 問2①「『まちの駅』を知っていますか。」
集計結果（一般向けアンケート）

	知っている	知らない	計
10代	0	9	9
	0.0%	100.0%	100.00%
20代	1	3	4
	25.0%	75.0%	100.00%
30代	11	5	16
	68.8%	31.3%	100.00%
40代	5	7	12
	41.7%	58.3%	100.00%
50代	2	4	6
	33.3%	66.7%	100.00%
60代	3	3	6
	50.0%	50.0%	100.00%
70代	3	10	13
	23.1%	76.9%	100.00%
80代	0	1	1
	0.0%	100.0%	100.00%
総計	25	42	67
	37.3%	62.7%	100.00%

2点目は、まちの駅のマークについてである。「『まちの駅』には以下ののぼりとマークがありますが、見かけたことはありますか。」という設問の結果は以下のとおりである（表3-3および表3-4参照）。

「ある」と答えた学生向けアンケートの総計は57.0%となり、一般向けアンケートの総計は61.2%となった。まちの駅の認知度と比べるとより多くの方がまちの駅ののぼりとマークを目にしていることがこのアンケートで分かった。まちの駅では、店先や店内の目立つところにのぼりやマークが置かれることが多く、その場所を「まちの駅」だということは知らずに利用していても、マークだけ目に入るといふことがあると想定される。半分以上の方がマークやのぼりを目にしているにも拘らず、「まちの駅」を認知していないことは残念に感じた。その一方でこのことをチャンスととらえ、マークやのぼりについての説明の機会を作ることやよりわかりやすく表示してもらうことによって、まちの駅の存在や機能をより知ってもらうことに繋がるのではないかと考える。

表3-3 問2②「『まちの駅』には以下ののぼりと
マークがありますが、見かけたことはありますか。」
集計結果（学生向けアンケート）

	1. ある	2. ない	総計
1. 長岡大学1年生	5	30	35
	14.3%	85.7%	100.0%
2. 長岡大学2年生	30	10	40
	75.0%	25.0%	100.0%
3. 長岡大学3年生	24	7	31
	77.4%	22.6%	100.0%
4. 長岡大学4年生	18	5	23
	78.3%	21.7%	100.0%
5. 長岡大学生のご家族	4	9	13
	30.8%	69.2%	100.0%
総 計	81	61	142
	57.0%	43.0%	100.0%

表3-4 問2②「『まちの駅』には以下ののぼりと
マークがありますが、見かけたことはありますか。」
集計結果（一般向けアンケート）

	ある	ない	無回答	計
10代	4	5	0	9
	44.4%	55.6%	0.0%	100.0%
20代	3	1	0	4
	75.0%	25.0%	0.0%	100.0%
30代	12	4	0	16
	75.0%	25.0%	0.0%	100.0%
40代	7	4	1	12
	58.3%	33.3%	8.3%	100.0%
50代	3	3	0	6
	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
60代	3	3	0	6
	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
70代	9	4	0	13
	69.2%	30.8%	0.0%	100.0%
80代	0	1	0	1
	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
総計	41	25	1	67
	61.2%	37.3%	0.0%	100.0%

3点目はまちの駅の利用についてである。「『まちの駅』を利用したことがありますか」という設問の結果は以下のとおりである（表3-5 および表3-6 参照）。

「ある」と答えた学生向けアンケートの総計は35.2%であり、一般向けアンケートの総計は20.9%にとどまった。一般的な認知度を得られなかった「まちの駅」だが、利用したことがあるかを聞くとさらにその割合が少なくなることがわかった。「まちの駅」の存在を知っていても、その機能を意識して使う機会は多くはないのかもしれないと思われる。一般向けアンケートでは、30代、60代、70代に「ある」と答えた方が多くいることが分かった。この結果については、今後また深く調査し、まちの駅の利用度向上に役立つことができればよいと感じた。

表3-5 問2③「『まちの駅』を利用したことがありますか」
集計結果（学生向けアンケート）

	1. ある	2. ない	総計
1. 長岡大学1年生	6	29	35
	17.1%	82.9%	100.0%
2. 長岡大学2年生	22	18	40
	55.0%	45.0%	100.0%
3. 長岡大学3年生	11	20	31
	35.5%	64.5%	100.0%
4. 長岡大学4年生	10	13	23
	43.5%	56.5%	100.0%
5. 長岡大学生のご家族	1	12	13
	7.7%	92.3%	100.0%
総 計	50	92	142
	35.2%	64.8%	100.0%

表3-6 問2③「『まちの駅』の利用したことがありますか」
集計結果（一般向けアンケート）

	ある	ない	無回答	計
10代	0	9	0	9
	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
20代	0	4	0	4
	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
30代	6	10	0	16
	37.5%	62.5%	0.0%	100.0%
40代	1	10	1	12
	8.3%	83.3%	8.3%	100.0%
50代	1	5	0	6
	16.7%	83.3%	0.0%	100.0%
60代	3	3	0	6
	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
70代	3	10	0	13
	23.1%	76.9%	0.0%	100.0%
80代	0	1	0	1
	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
総計	14	52	1	67
	20.9%	77.6%	0.0%	100.0%

4点目は情報収集の媒体についてである。「地域の情報収集の方法についてお伺いします。」という大問の中の「情報収集に使用する媒体は何ですか。（*複数回答可）」という設問の結果は以下のとおりである（表3-7および表3-8参照）。

この設問は、ゼミナールの活動をするにあたってどのような広告媒体を利用すれば活動を周知できるかを調べるためのものである。学生向けアンケートで上位にあるのは「インターネット」「SNS」「口コミ」であったが、一般向けアンケートの上位は「紙媒体」「インターネット」「口コミ」の順番となった。2つのアンケートで差が出た要因として、年齢層があげられる。学生向けアンケートは10代、20代が大多数を占めるのに対し一般向けアンケートは10代から80代まで幅広い方々に調査を行ったため、結果に差が生じたと考えられる。若者に呼びかける手段としては「インターネット」や「SNS」での広報が有効であるが、幅広い年齢層を取り込むことを考えると「紙媒体」での広報も必要になってくることが分かった。これからゼミナールの活動を一般の方々にも周知していく中でどう広報していくかが重要であると考えられるので、参考になる統計が取れたことは大きな成果と言える。

表3-7 問4②「情報収集に使用する媒体は何ですか。（*複数回答可）」
集計結果（学生向けアンケート）

	家族、友人、知人からの口コミ	紙媒体	ラジオ	テレビ	インターネット（Google、Yahoo!などの検索エンジンで検索）	SNS（LINE、Facebook、Twitter、Instagramなどのサービス）	対象者数
1. 長岡大学1年生	22	7	1	16	30	23	35
	62.9%	20.0%	2.9%	45.7%	85.7%	65.7%	—
2. 長岡大学2年生	27	13	3	18	31	32	40
	67.5%	32.5%	7.5%	45.0%	77.5%	80.0%	—
3. 長岡大学3年生	19	15	2	13	18	22	31
	61.3%	48.4%	6.5%	41.9%	58.1%	71.0%	—
4. 長岡大学4年生	15	11	2	8	21	14	23
	65.2%	47.8%	8.7%	34.8%	91.3%	60.9%	—
5. 長岡大学生のご家族	8	7	5	9	7	4	13
	61.5%	53.8%	38.5%	69.2%	53.8%	30.8%	—
総計	91	53	13	64	107	95	142
	64.1%	37.3%	9.2%	45.1%	75.4%	66.9%	—

表3-8 問4②「情報収集に使用する媒体は何ですか。（*複数回答可）」
集計結果（一般向け向けアンケート）

	口コミ	紙	ラジオ	テレビ	インターネット	SNS	対象者
10代	2	3	0	1	2	3	9
	22.2%	33.3%	0.0%	11.1%	22.2%	33.3%	-
20代	0	0	0	1	1	4	4
	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	25.0%	100.0%	-
30代	7	13	2	5	6	7	16
	43.8%	81.3%	12.5%	31.3%	37.5%	43.8%	-
40代	3	5	1	4	8	3	12
	25.0%	41.7%	8.3%	33.3%	66.7%	25.0%	-
50代	2	2	0	2	3	1	6
	33.3%	33.3%	0.0%	33.3%	50.0%	16.7%	-
60代	3	3	1	1	1	2	6
	50.0%	50.0%	16.7%	16.7%	16.7%	33.3%	-
70代	5	9	1	2	3	0	13
	38.5%	69.2%	7.7%	15.4%	23.1%	0.0%	-
80代	0	1	0	0	0	0	1
	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	-
総計	22	36	5	16	24	20	67
	32.8%	53.7%	7.5%	23.9%	35.8%	29.9%	-

5点目はSNSの利用についてである。「SNSの利用についてお伺いします（*複数回答可）」という設問の結果は以下のとおりである（表3-9および表3-10参照）。

SNSの利用については、若い人にまちの駅を知ってもらうために、SNSの活用が有効かどうかを調べたいと思い設問を作成した。学生向けアンケートでは、「LINE」「Twitter」を過半数の方が利用していることが分かり、一般向けアンケートでは、「LINE」のみが過半数を超える結果となった。一般向けアンケートは幅広い年齢層に調査を行ったため、普段インターネットに触れる機会が少ない高齢者を数に入れての数値になっている。30代以下だけに絞ると、「LINE」は96.4%、「Twitter」は58.4%、「Instagram」は69.0%、「Facebook」は27.6%、「利用していない」が3.4%となりSNSの利用がとても多いことが分かった。SNSは情報発信する手軽さが長所であるほか、情報の拡散・共有がされやすく上手に活用することができればとても広範囲に広報をすることができる。このアンケートの結果を利用し今年度鯉江ゼミナールでは、鯉江ゼミナール公式インスタグラムアカウントの開設をおこなった。詳しくは「5.3 Instagramによる広報活動」を参照されたい。

表3-9 問5「SNSの利用についてお伺いします（*複数回答可）」
（学生向けアンケート）

		LINE	Twitter	Instagram	Facebook	その他	利用していない	無回答	対象者数
学生 & 家族	1. 長岡大学1年生	32	19	18	1	0	0	1	35
		91.4%	54.3%	51.4%	2.9%	0.0%	0.0%	2.9%	—
	2. 長岡大学2年生	39	31	26	4	0	0	0	40
		97.5%	77.5%	65.0%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%	—
	3. 長岡大学3年生	26	24	15	1	0	0	0	31
		83.9%	77.4%	48.4%	3.2%	0.0%	0.0%	0.0%	—
4. 長岡大学4年生	19	12	7	1	0	1	0	23	
	82.6%	52.2%	30.4%	4.3%	0.0%	4.3%	0.0%	—	
5. 長岡大学生のご家族	9	4	1	1	0	4	0	13	
	69.2%	30.8%	7.7%	7.7%	0.0%	30.8%	0.0%	—	
総計		125	90	67	8	0	5	1	142
		88.0%	63.4%	47.2%	5.6%	0.0%	3.5%	0.7%	—

表3-10 問5「SNSの利用についてお伺いします（*複数回答可）」
（一般向けアンケート）

	LINE	Twitter	Instagram	Facebook	利用していない	対象者
10代	9	6	8	2	0	9
	100.0%	66.7%	88.9%	22.2%	0.0%	-
20代	4	4	3	1	0	4
	100.0%	100.0%	75.0%	25.0%	0.0%	-
30代	14	7	9	5	1	16
	87.5%	43.8%	56.3%	31.3%	6.3%	-
40代	12	2	2	2	0	12
	100.0%	16.7%	16.7%	16.7%	0.0%	-
50代	1	1	0	0	4	6
	16.7%	16.7%	0.0%	0.0%	66.7%	-
60代	2	0	0	1	4	6
	33.3%	0.0%	0.0%	16.7%	50.0%	-
70代	0	0	0	0	13	13
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	92.3%	-
80代	0	0	0	0	1	1
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	-
総計	42	20	22	11	21	67
	62.7%	29.9%	32.8%	16.4%	31.3%	-

3.4 調査活動のまとめ

今回の学生向けアンケート、一般向けアンケートの結果から得られた成果は2点ある。1点目はこれまで曖昧にしてきた「まちの駅」の認知度や利用率を明確に数値として出すことができた点である。これまでゼミナール内で抽象的に考えられた「まちの駅」の認知度の低さが数値で見えるようになったことは、現状把握ができたほか、これからのゼミナールで再度アンケート調査をおこなったときに比較できるデータができたということでも大きな成果と言える。2点目は、ゼミナール活動に有効な広報活動を考えるきっかけができたという点である。私たちのゼミナールは外に出て活動することが多いものの、その活動が他の学生や一般の方に見ていただく機会はありません。私たちの活動を知っていただくことも「まちの駅」の認知と新潟県内の地域活性化に繋がると考えられるため、それを発信する媒体を検討するためのデータが得られたことも成果としてあげられる。課題としては、一般向けアンケートにおいて調査する年齢、性別に偏りが生まれてしまったことがあげられる。今回の一般向けアンケートでは約75%を女性に答えていただいた。このことによってアンケート結果にバイアスがかかってしまう可能性も少なくはないと考える。今後アンケート調査をする場合は、より多くの方々に答えていただきたいのはもちろんであるが、年齢や性別のデータが偏らないように工夫して調査を行いたいと考える。

4. 「情報収集」活動について

4.1 ヒアリング・パネルの作成

4.1.1 ヒアリングまでの手順

ヒアリング調査を実施するまでに行った手順は以下の通りである。

<手順① まちの駅についての情報収集>

今までにゼミナールの活動で作成してきたパネルと「全国まちの駅連絡協議会」の Web ページ内にあるまちの駅帖を比較し、パネルを作成していない駅の情報を「全国まちの駅連絡協議会」の事務局長である橋本正法さんに伺った。また、昨年度から「越後長岡まちの駅ネットワーク事務局」の方から新駅の情報を受けていたため、そちらについても確認を行った。

<手順② アポイントメント>

ヒアリング調査を行う駅に電話でアポイントメントを取った。今年度は、駅長さんと学生の都合がなかなか合わないことがあり、日程決めに苦労した。

<手順③ ヒアリングの実施>

6月からヒアリング調査を実施した。まちの駅を始めたきっかけやその駅の特徴、アピールポイントなど様々なことを伺った。

4.1.2 パネル作成から完成までの手順

パネルの完成までの手順は以下の通りである。

<手順① 情報整理>

まずはヒアリング調査で得た情報をメンバー間で共有し、パネルに記載する情報の精査を行った。

<手順② パネル作成>

PowerPoint を使用してパネル作成を行った。ヒアリング調査で頂いた資料やまとめた情報を基に作成した。その駅の特徴を意識したデザインを考えることに苦労した。

また、実際に印刷してみると文字や写真の大きさ、色といった全体の雰囲気などがパソコンのディスプレイで見た時と異なることがあり、何度も作り直した。

<手順③ 仮完成>

完成したパネルを各駅にメールや Fax 等でお送りし、内容やデザインを確認して頂いた。

<手順④ パネルの修正>

修正箇所を頂いた駅に関しては、修正した後、もう一度メール等でお送りして確認して頂いた。

<手順⑤ パネルの完成>

駅長さんの了解を頂いて完成である。それぞれのまちの駅の特徴や個性が出せるよう工夫しパネルを作成した。

以下、ヒアリング及びパネル作成を行ったまちの駅を紹介する。

<まちの駅 ごせん桜アロマ工房>

「まちの駅 ごせん桜アロマ工房」は、2018年4月に県内有数のお花見スポットである村松公園の隣にできたまちの駅である。

このまちの駅では八重桜から抽出した桜エキスをを使用した商品の開発・販売を行っており、カフェコーナーがあるため店内での飲食も可能である。市内の見どころやイベント情報がつまったパンフレットも置いているため、まちの観光案内所としても活躍している。

そして、こちらの駅のキャッチコピーは「桜香る癒しの駅」である。このように名付けさせていただいたのは、日本にも数少ない低温真空抽出機で八重桜の桜エキスの抽出を店内で行っており、加えて市内に癒しの空間を提供しているからである。これからまちの駅のイベントが開催される際には、積極的に関わっていきたくと仰っていただいたので、五泉地域のまちの駅とも何らかの形でもっと親交を深めていきたくと感じた。



ヒアリングの様子

五泉
地域

まちの駅 ごせん桜アロマ工房



〒959-1765 新潟県五泉市愛宕甲2712-1
TEL:0250-47-7081/FAX:0250-47-7039
営業時間:9:00~17:00※飲食コーナーの販売時間 10:00~16:00
定休日:月曜日(祭日の場合は営業、翌日休)・12/29~1/3



低温真空抽出機

五泉市の八重桜から抽出した天然成分を使った化粧品や食品の商品開発、販売を行っているまちの駅です。また、市内の見どころやパンフレット、季節に合わせたイベント情報なども発信し、観光案内も行っています。

店内では、桜エキスを抽出するための低温真空抽出機も見られます！飲食スペースもあり、販売されているコーヒーを飲んだり、アイスを食べたりすることも可能です。

キャッチコピー ～ 桜香る癒しの駅 ～

五泉市の八重桜を使った商品、そして立ち寄った人を癒す素敵な空間ということからこのキャッチコピーにしました。



大人気のごせん桜アイス
(税込250円)

学生をつぶやき

おすすめのごせん桜アイスを食べたのですが、優しい甘さでとても美味しかったです！お店の近くには桜の木がたくさんあるので、春になったらまた行きたいと思いました。

18K001 赤塚倫子

2020年度作成：17K090 沼沢純子 18K001 赤塚倫子

〈まちの駅 あかりの駅〉

「まちの駅 あかりの駅」は見附市にある、電気工事業を中心に事業を行っている株式会社あかりテックが運営しているまちの駅である。まちの駅に参加するにあたって設けられた部屋があり、ヒアリングはそこでさせていただいた(ヒアリングの様子参照)。このスペースは誰でも訪れることができ、事前にアポイントをとればまちの駅の利用だけでなく、家電などの生活に関する相談にも乗ってもらうことができます。また、見附の俳人である佐野良太先生の旧家を改装し「癒しの空間あかり」として運営されています。ここはまちの駅としての運営は行っていないが、アポイントを取ることで誰でも訪れることができるそうです。

このまちの駅のキャッチコピーは「暮らしを照らす笑顔エネルギー」である。地域住民の力になれることで笑顔を生み出す力を感じたことに加え、駅長である渋谷さんの、他のまちの駅とも積極的に交流したい、まちの駅としての活動も行っていきたいという熱い気持ちを感じたためこのキャッチコピーをつけさせていただきました。



ヒアリングの様子



あかりの駅 【株あかりテック】

〒954-0052
新潟県見附市学校町
2丁目4-10
Tel: 0258-62-1272
営業時間: 8:30~17:30
休み: 日、祝日
第2・4土曜日



～駅紹介～

あかりの駅は電気工事業を中心に、創業から50年以上の歴史を持つ「株あかりテック」が開設しました。現在はもみ殻をくん炭などにして再利用する「もみ殻バイオ事業」や、見附の俳人である佐野良太先生の旧家を改装し太陽光発電を行っています。またこの旧家は、癒しの空間「あかり」として、事前にアポイントを取ればだれでも訪れることができます。



キャッチコピー

～暮らしを照らす笑顔エネルギー～
地域住民の家電などに関する生活の悩みを解決し、暮らしと笑顔にパッとエネルギーを与えられる力をヒアリングを通じて感じたため、このキャッチコピーにしました。アポイントをとれば、パンフレットなどを用いて直接アドバイスしてもらえます！



写真左奥は社長さん。左手前は駅長さんです。

学生の一言

ヒアリングはまちの駅のために作ったスペースでさせていただきました。駅長の渋谷さんと社長の佐藤さんからはいつでも気軽に立ち寄ってほしいと言ってくれました。あなたもほっと気持ちを照らされてみませんか？

17K080 智野虎太郎



2020年度作成

<ほんのちょっとワクワクステーション>

「ほんのちょっとワクワクステーション」は、書店であるが駄菓子やおもちゃを多く取り揃えるまちの駅である。

店名の由来は二つあり、「ほんのちょっと」の部分は本が少ししか置いていないことから名づけられ、「ワクワクステーション」の部分は老若男女様々な方にワクワクしてほしいという思いから名づけられたとおっしゃられていました。

店内は子供から大人まで様々な年齢層向けの雑誌がおいてあり、訪れた方々みんなに楽しんでもらいたいという思いを強く感じました。また駄菓子やおもちゃのコーナーも、最近になって見るようになってきたものもあれば、昔からあるものも取り揃えられていてワクワクする要素が店内にちりばめられていました。

駅長さんは、まずは地域の方々との絆をさらに深め友達のような関係を築きたいとおっしゃられていました。



ヒアリングの様子

見附 地域

ほんのちょっと ワクワクステーション 押野見書店

まちの駅の名前の由来

「ほんのちょっと」の部分は、本屋さんだけ本が少ししかないところから。「わくわく」は本だけでなく、駄菓子やおもちも取り揃えていて、老若男女に楽しんでほしいということから名付けられたそうです。



学生の一言

最初は本屋さんかと思ってお邪魔しましたが、本のコーナーは店内の半分くらいで、駄菓子やおもちのコーナーが広く、驚きました。流行り物はもちろん、懐かしさを感じさせる駄菓子やおもちも置いてありました。近くに立ち寄った際は、気軽にお店に入るとわくわくを感じられるのではないのでしょうか？

17K055 小山 陸

キャッチコピー

「地元みんながお友達、わくわく広がる駅」

① 地元の小学生からお年寄りまで幅広い常連の方が立ち寄り、駅と人が友達のような関係になっているとおっしゃられていたことから考えました。このステーションから懐かしくて楽しくて嬉しい気持ちを県内に発信していきます！



Google マップより

住所 〒954-0111
新潟県見附市今町1-9-19
TEL 0258-66-2207
営業時間 9:30～19:30
不定休

2020年度作成
作成者:17K055 小山陸

<まちの駅レアント>

まちの駅レアントは、見附市からの要請がきっかけで今年から新しく加入したまちの駅である。

こちらの駅は見附市にあるホテルであり、24時間空いていてロビーはだれでも自由に使することができるそうです。隣にあるイングリッシュガーデンは、たくさんのお花が咲いていてとてもきれいであり、5、6月のバラのシーズンがお勧めだそうです。

そしてこちらの駅のキャッチコピーは、「花が彩るやすらぎの駅」である。イングリッシュガーデンの美しさとホテル内の過ごしやすい空間と高級感をイメージして名付けさせていただきました。



ヒアリングの様子

見附
地域

まちの駅レアント 【イングリッシュガーデン ホテルレアント】



〒954-0076 見附市新幸町5-10

年中無休

TEL 0258-66-1177

FAX 0258-66-1100

URL: <https://reant.jp/>

Googleマップより

まちの駅紹介

まちの駅レアントは見附市にあるホテルです。24時間開いていて、ロビーはだれでも自由に使うことができます。トイレや道を聞くために利用する人、夏場は涼むために利用する人が多いそうです。隣にあるイングリッシュガーデンはたくさんの種類のお花が咲いてとてもきれいです。5、6月のバラのシーズンがおすすめで、他県からのお客様も多いようです。とても過ごしやすいまちの駅なので、ぜひ一度足を運んでみてください！



ホテル内の様子

キャッチコピーは、

「花が彩るやすらぎの駅」です。
イングリッシュガーデンの美しさとホテル内の過ごしやすい空間と高級感をイメージして名付けさせていただきました。



学生のつばやき

イギリスをイメージした建物や内装はとても優雅で気品あふれるまちの駅です。
イングリッシュガーデンは広く、バラの花が咲く5、6月はより楽しめると思います。

イングリッシュガーデンの様子

2020年度作成:17K026 大竹一輝 18K049 坂元明日香

〈クラフトビールの駅〉

クラフトビールの駅は、主に5種類のクラフトビールとスコッチウイスキー提供しているまちの駅である。ビールの味をまだ知らない初心者の方や女性向けのマスカットの風味がするクラフトビールもあれば、苦みが強い大人なクラフトビールもある。お店の隣にある工場でクラフトビールの仕込み体験が可能で、中々見ることのない製造工程を間近で見ることができます。

まちの駅の活動としては、「みつけのまちの駅をめぐるバスツアー」や地域イベントなどに参加しクラフトビールを提供しているそうです。

キャッチコピーは「ビキナーからマニアまでハシビロコウと呑む駅」である。店内には駅長さんご夫婦のお嬢さんが好きなハシビロコウのぬいぐるみが置いてあり、一緒に楽しんでくれます。先ほど述べたように若い女性でも呑みやすいフルーティーなクラフトビールからハイアルコールビールまで幅広い年齢層の方が楽しめるため、このように名付けさせていただきました。



ヒアリングの様子



クラフトビールの駅 【Café ho.cca】



住所：〒954 - 0058

新潟県見附市葛巻1-9-49

TEL: 0258-63-5873

営業時間：平日 18:00~23:00

土曜日 15:00~23:00

日曜日 15:00~21:00

お休み：木曜日

クラフトビールの駅とは・・・

2018年8月より併設の工場でクラフトビール5種類とスコッチウイスキーを中心に製造、店舗で提供しています。2021年3月までは瓶ビールのテイクアウトも行っています。

予約制でビール仕込み体験が可能です。その他にも結婚式などの記念ビール、オリジナルビールを依頼することができます。

まちの駅として「みつけのまちの駅めぐりバスツアー」や地域イベント等に参加されています。

こちらの駅のキャッチコピーは 「ビキナーからマニアまで ハシビロコウと呑む駅」

店内には駅長さんご夫婦のお嬢さんが好きなハシビロコウのぬいぐるみが置いてあり、一緒に楽しんでくれます。

若い女性でも呑みやすいフルーティーなクラフトビールから麦とホップを贅沢に使ったハイアルコールビールまで幅広い年齢層の方に楽しんでいただけます。



一度来店したらもう一度行きたくなるアットホームな店内とオシャレな雰囲気が漂うお店でした。丹精込めて仕込んだ愛情たっぷりの地ビールを提供されています。ぜひ一度、お立ち寄りください。

18K033 木下歩美 18K049 坂元明日香

2020年度作成：17K050小林萌香 18K033木下歩美 18K049坂元明日香

<ながおかまちの駅 モンゴル語パネル>

今年度は新たな試みとして、鯉江ゼミナールの活動を外国の方々にも知ってもらいたいと考え、まちの駅パネルのモンゴル語バージョンを作成した。翻訳する際、日本語で書かれていた内容は理解できていたが、それをモンゴル語に翻訳する時に適切な言葉が見つからないことがあり、とても苦労した。ゼミナール内で意見をもらいながら、一般的なモンゴル人が読んですぐ理解できるような文章にすることも大変で何度も書き直した。また、キリル文字と同時にモンゴルの伝統的な文字「モンゴル文字」を使用したのもまちの駅パネルの工夫の一つである。モンゴル文字は日常的に使うことはないが、小学生の時に得た知識を使いパネルに落とし込むことができて良かった。

長岡
地域

ながおかまちの駅

アオーレ長岡・市民協働センター



越後長岡まちの駅ネットワークの
各種パンフレットを取り揃えています！




ここでは、越後長岡まちの駅ネットワークを取りまとめる、市民共同センターでもあります。また、役所と市民交流スペースが、一緒になった憩いの場所でもあります。交通の便も大変良く、多くの人が訪れます。まちの駅の情報だけでなく、イベントの広告やPRなどもしています。



Googleマップより



Pepper君も
お出迎え！

- 営業時間 8:00～22:00
- TEL 0258-39-2020
- FAX 0258-39-2900
- 休業日 12/29～1/3
〒940-0062
長岡大手通1-4-10
アオーレ長岡・西棟3階

学生のつばやき

社交ダンスをしていたり、学生が集まって勉強をしたりなど若者男女多くの人が交流していました。長岡に立ち寄った際はまずはアオーレ長岡市民協働センターに！

新保祐博 中島なつ美

平成28年度編集

ながおかまちの駅 日本語パネル



あ
お
ま
ち
の
駅

АОРЭ НАГАОКА · Иргэдийн хамтын ажиллагааны төв



Эчиго Мачино эжитэй холбоотой бүх төрлийн гарын авлага энд байгаа !



Энд Эчиго Нагаока Мачино экигийн нэгдсэн төв болох "Иргэдийн хамтын ажиллагааны төв" байрладаг. Хотын захиргаа болон иргэдийг холбосон амралтын хэсэгтэй.

Мөн хотын төвд байрладаг учраас олон хүн цуглардаг. Мачино экигийн мэдээлэл төдийгүй таниулан сурталчлах олон талт үйл ажиллагааг явуулж байна.



Google газрын зураг

робот Пеппер таныг угтаж авна



- Ажлын цаг: 8:00-22:00
 - Утас: 0258-39-2020
 - Факс: 0258-39-2900
 - Амралт: 12/29~1/3
- Шуудан: 940-0062
長岡大手通1-4-10
アオーレ長岡・西棟3階

Нагэн өмнөтний хайргээ

Цэнгээнт бүжиг бүжиглэх, хамтдаа хичээлээ хийх зэрэг, бүхий л насны хүмүүс энд цуглардаг. Нагаокад ирсэн бол эхлээд заавал АОРЭ Нагаока "Иргэдийн хамтын ажиллагааны төв"-өөр зочлоорой.

2016 он

ながおかまちなかの駅 モンゴル語パネル

4.2 地域貢献活動

4.2.1 花はすボランティア

(1) 概要

上通小学校の生徒達が育てている蓮に水をあげ、水鉢に浮かんでいる汚れを綺麗にするボランティアに参加した。8月20日には汚れを綺麗にするのに加えて、水槽に入っているメダカを上通小学校に返すためにすくった。

(2) 日時

令和2年7月30日、8月6日、8月20日

(3) 場所

アオーレ長岡

(4) 参加学生

学年	氏名
4年	大竹一輝、小林萌香、小山陸、沼沢純子、アルタンチメグ・デルゲルマー
3年	赤塚倫子、坂元明日香

(5) まとめ

毎年、上通小学校の生徒と一緒に蓮の水やりを行ってきたが、今年は予定が合わず小学生との交流は叶わなかった。そのため、ながおか市民協働センターの方と協力して水やりを行った。炎天下での作業は大変だったが、蓮が花開いていく過程を見ることができ、達成感があった。蓮の前を通る方からも「綺麗に咲いていますね」と声を掛けて頂いた。



4.2.2 みつけ MADE ファッションフェア

(1) 日時

2020年11月7日(土)～8日(日)、11月14日(土)～15日(日)

9:00～16:00(日曜日は15時まで)

ボランティアには14日～15日の計2日間参加した。

(2) 場所

ネーブルみつけ

(3) 主催

みらい市場 ニット部会 (事務局：一般社団法人 見附市観光物産協会)

(4) 参加学生

学年	氏名
4年	小山陸、智野虎太郎



(5) 主な活動内容

レジの会計補助や商品のタグ回収、袋詰めを行った。

(6) まとめ

当日はネーブルみつけのスタッフが行うレジの会計補助を2名で行った。コロナ禍ではあったが、マスク着用はもちろん検温やアルコール消毒など万全の準備をしての開催となった。お客さんは県内だけに留まらず県外からも訪れ、見附市が誇るニット製品を老若男女を問わず購入する姿を見ることができた。

また、ネーブルみつけを普段から利用されている方とスタッフの方が談笑される姿も見られ、地域の交流の場としてのまちの駅の重要性や可能性も感じることができた。

4.3 情報収集活動のまとめ

地域貢献活動やヒアリングを行った後ゼミナール生で話し合いをし、駅長さんから聞いた問題点と課題、その原因を整理し、それらを改善するための活動について案を出し合った。以下、問題点と改善点を述べていく。

1 点目はまちの駅ネットワークからそれぞれ活動しているまちの駅まで情報が伝わっていないことである。原因として端的にまちの駅ネットワークの管理不足にあるのだと推察する。一つ例を挙げるとまちの駅を紹介している「まちの駅リーフレット」が届いておらず、いつ送られてくるか分からないというのがある。改善策として、多くのまちの駅がある中、一つ一つ管理をしていくことは難しいことだが、改めて確認し直して不足のある部分を無くしていく必要がある。そしてまちの駅の方も受け身の姿勢にならず、何かあったら一報するとまちの駅ネットワークの方も迅速な対処ができると思う。

2 点目は温度差がありモチベーションが下がっているまちの駅があることが挙げられた。原因として、加盟したけれど何をしたらいいか分からないということである。精力的な活動をしている駅と新しく活動を始めた駅では、各まちの駅ができる活動に大きく差が出てしまっている。改善策として新しく始めたまちの駅に向けた、講習会を開くことが考えられる。そこでは精力的なまちの駅による「うちではこんな活動をしているよ」というようなレクチャーを行い、参加できそうなイベントを紹介するといった場を設けると、何をしたらいいか分からないといった悩みが解消されると考える。

3 点目はお金が落ちる活動がないとお店との両立が困難になり、まちの駅の活動が続けられないことである。改善策は行政とまちの駅ネットワークが連携して今後活動していただける分のお金を補助してもらおう。双方が連携し合えば、まちの駅の認知度向上の可能性が広がり幅広い活動ができるようになるのではないかと考える。

最後に様々なイベントが中止になり、外部活動の制限がある中で多くの有益な情報を集められ、外部の人との友好的な関係を築くことができた。改善点の部分では触れなかったが、鯉江ゼミナール生が間に入り、まちの駅同士が情報交換や連携を行うことができるように橋渡しをしていけるとまちの駅や地域が活発になると考える。

5. 「発信」活動について

発信活動として、「まちの駅パネル展」「まちの駅1分間CM」「Instagramによる広報活動」「外国人向けのパンフレット作成」「成果発表会」「ウェブページの更新」を行った。

5.1 まちの駅パネル展

今年度は、悠久祭で例年行っていたパネル展が悠久祭の中止により行うことができなくなった。その代わりに、長岡大学の保護者会とアオーレ長岡のながおか市民協働センターを会場にしてパネル展を開催し、まちの駅の認知度アップを図った。

(1) 日時・場所

長岡大学 10月24日(土)
ながおか市民協働センター 10月20日(火)～11月3日(火)

(2) 参加学生

長岡大学

学年	氏名
4年	大竹一輝、小林萌香、小山陸、智野虎太郎、沼沢純子
3年	赤塚倫子、木下歩美、坂元明日香

ながおか市民協働センター

学年	氏名
4年	大竹一輝、小林萌香、智野虎太郎、沼沢純子
3年	坂元明日香



5.2 まちの駅 1 分間 CM

5.2.1 概要

まちの駅をフィールドとして調査・研究を行っている学生が、昨年度に引き続き、まちの駅の魅力を 1 分間の CM 内で紹介する活動である。越後ながおかまちの駅ネットワーク参加駅のうち 6 駅に改めてヒアリング取材を行い、パネルの更新とともにラジオ原稿を作成する。

5.2.2 事業目的

この事業の目的は、次の 3 つである。

- ・「まちの駅」の認知向上を目指し、身近で利用しやすいコミュニティの場であることを周知する。
- ・「まちの駅」関係者へのヒアリング取材を通して、「まちの駅」それぞれの魅力や特徴を改めて認識する。
- ・放送する時間帯を限定させず、広い時間帯で流すことにより幅広い層に「まちの駅」を訴えかける。

5.2.3 放送について

1 月時点で企画進行中

5.2.4 取材先のまちの駅

駅名	店名
① まちなか酒の駅	山崎酒店
② 越後長岡酒と味の駅	(有) 佐田酒店
③ まちの駅 伊丹	洋品の伊丹
④ まちの駅 JAZZ 楽	魚楽 (ぎょらく)
⑤ 栃尾まちの駅 とちパル	栃尾秋葉門前商工プラザ
⑥ まちの駅 あんたや	(有) 安田屋

5.2.5 参加学生

学年	氏名
4 年	大竹一輝、小林萌香、小山 陸、智野虎太郎、沼沢純子、アルタンチメグ・デルゲルマー
3 年	赤塚倫子、木下歩美、坂元明日香

5.2.6 協力

越後ながおかまちの駅ネットワーク
NPO 法人市民協働ネットワーク長岡
FM ながおか

5.2.7 企画名

長岡大学プレゼンツ☆まちの駅 1 分間 CM 企画

5.3 Instagram による広報活動

5.3.1 概要

鯉江ゼミナール公式の Instagram アカウントを開設し、ヒアリングに伺ったまちの駅の紹介、ゼミナール活動の紹介、作成パネルの紹介などを行いまちの駅の認知度向上を図る。

5.3.2 経緯

毎年鯉江ゼミナールは、まちの駅と交流しまちの駅が存在を知ってもらおうべくボランティア活動に参加するなど様々なアプローチをしてきた。

しかし、昨年度の活動を通して、ゼミナール生全員が感じたのは「まちの駅の認知度が低い」ということである。また、まちの駅の機能も認知されていなかった。まちの駅自体が認知されていなければ、私たちの活動も周囲に認知されていないことになる。これは、まちの駅を通して地域活性化を目指している私たちにとっての最大の課題だと感じた。そのような経緯があり、今年は「まちの駅の広報誌作成」という昨年度立てた目標を更に進化させ、SNS を使った広報活動を行うという流れになったのである。

5.3.3 活動内容

(1) 投稿とアカウント管理について

投稿内容は以下の通りである。

- ・鯉江ゼミナールの活動紹介（ヒアリング、パネル展、成果発表会など）
- ・作成パネルの投稿（新駅パネル、更新パネル）
- ・まちの駅の紹介

以上の内容を Instagram 特有のタグ（例：#新潟県#まちの駅など）を使い、数多くの人の目に留まるように文章を作成し写真と共に投稿。Instagram アカウントは学生自身が管理し、投稿も学生自身で行った。

(2) 「フォロワー」数と「いいね」数について

Instagram は、自分自身の投稿をどれくらいの人が閲覧したかを確認する「アクセス数」がわからない。今回は、「フォロワー」と「いいね」の数で広報活動がどの範囲に影響を与えているかを判断する。2020 年 12 月 14 日現在、フォロワーは 21 人、各投稿の「いいね」数は以下の通りである。

- ・2020 年 10 月 9 日 ごせん桜アロマ工房へのヒアリング紹介 →12 個
- ・2020 年 10 月 27 日 あかりの駅へのヒアリング紹介 →7 個
- ・2020 年 10 月 28 日 ながおか市民協働センターにて開催したパネル展の告知
→10 個
- ・2020 年 11 月 11 日 ごせん桜アロマ工房パネルの公開 →10 個
- ・2020 年 11 月 18 日 中間発表の報告 →9 個
- ・2020 年 11 月 26 日 まちの駅レアントのヒアリング紹介 →10 個
- ・2020 年 12 月 14 日 成果発表会の報告 →10 個

また現在、当アカウントは薬剤を取り扱う企業に所属する個人アカウントや、ホテル関係のアカウントからフォローをいただいている。企業の目に留まるということは、その企業に所属している大半の人に私たちの活動を認知していただけるのではないかと考える。全体で見た値は少なく見えるかもしれないが、1つの企業からの認知を得ればそこからつながりのある個人へ伝わっていくので、その数は計り知れないほど大きいものである。1つのアカウントのフォローから何百人といった人に伝わっていくというのは、SNS特有の性質である。今後はさらに、投稿数やストーリー機能を最大限に活用し、フォロワーアップを狙っていきたいと考える。

(3) 今後の方針

これからも鯉江ゼミナールの活動紹介ならびに、まちの駅の紹介や作成したパネルの投稿を行っていきたいと考えている。そして、それに加えフォロワーをさらに伸ばし、1つの投稿に付く「いいね」の数も増やしていきたいと考えている。また、まちの駅フォトコンテストなどを開催し、各まちの駅が撮った写真をInstagram内で公開するオンラインイベントなども行っていきたいと考える。

5.3.4 Instagramによる広報の有用性

現在、日本におけるInstagramのアクティブユーザーは2019年6月時点で3,300万人を超えている。これは、日本の約4分の1の人がInstagramユーザーということになる。ユーザーの年齢層は、10代から60代までと幅広い年齢層にわたっている。男女比は4:6でやや女性の方が多い状況である。

最近では、「インスタ映え」を狙った写真が注目されたり、インスタで商品の写真を載せたりすることで広報しているアパレルブランドが数多く存在する。これは、写真を主にしたInstagramの特性を大いに利用している広報手段だといえる。また、Instagramへの投稿はURLで共有することが出来るため、Twitterユーザーからの認知もされやすいのである。

また、ゼミナール活動紹介及びまちの駅の広報活動をするにあたり、写真と文章を両方使う必要がある。InstagramはTwitterとは異なり字数制限がない上に、写真をメインにした投稿が出来る。これにより、Instagramは私たちの活動をわかりやすく伝えられるSNS媒体と考える。それだけではなく、Twitterは自分がフォローしている人のリツイートやツイートしか目に入らないため、得られる情報が偏ってしまう。しかし、Instagramは検索画面に自分がフォローしていない人の画像が表示される機能がある。これは、今までの閲覧履歴やタグ検索からInstagramがそのユーザーが興味を持つような写真を検索画面にランダム表示する。これにより、私たちの投稿が数多くの人の目に触れる機会が増えるのではないかと考える。加えて、Instagramに欠かせないもののひとつに「タグ」がある。これは、投稿の下部につけるものでユーザーは検索画面で興味があるタグを入力することで画像を検索する。投稿にユーザーが検索しそうなタグを多くつけることで、また人の目に触れる機会が増えるのである。これらの特性と機能をうまく活用すれば、今後の広報活動に有効なものになると考えられる。

5.3.5 まとめ

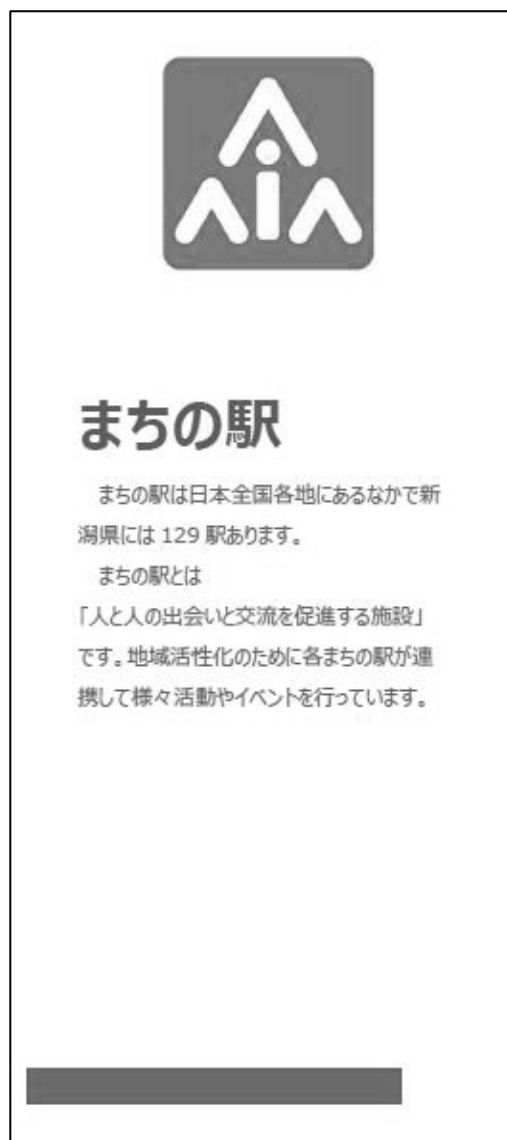
今回の活動を通して、改めて認知度を上げるということの難しさを痛感した。Instagram という媒体は魅せ方が大切になってくる。写真を加工したり、読んでいて楽しい文章を作成したり、読み手が得たい情報を的確にわかりやすく伝えたりしなければならない。今回の活動を通しては、タグの使用など運営にあたって学ぶことが沢山あった。Instagram を開設するにあたって、活動フローの「調査」でまちの駅の認知度の低さはわかっていたからこそ、投稿に対する反応は何もないと予想していた。しかし、結果的に企業の方含め様々な方にフォローしていただいたり、「いいね」をしていただいたりすると予想を上回る反応を数多くいただくことが出来た。

これからは、Instagram の特性を更に活かした広報活動を続け、まちの駅の認知度向上に寄与していきたいと考える。

5.4 外国人の方向けのパンフレット作成

今年度の活動では、留学生にも積極的にまちの駅の認知度向上に関わってもらいたいと考え、忙しい留学生でも空いた時間で取り組むことができる活動を日本人学生と共に話し合いを行った。その結果、新たな試みとして、外国の方にも気軽にまちの駅に立ち寄ってもらうため、外国人向けのパンフレットの作成を行った。作成するために、留学生もまちの駅の資料を隅々まで読み、まちの駅を理解を深めることができた。このようなパンフレットがあると、私たち以外に長岡の学校で学んでいる留学生をはじめとする、長岡で暮らす外国人にまちの駅の魅力を発信することができ嬉しく思う。完成したパンフレットは、地域交流センターや国際交流センター「地球広場」など外国人が集まる場所に置いていただけになっている。

パンフレット 表紙 (日本語)





Мачи но Эки нь япон улсын аймаг сум бүрт байдгаас Нийгата аймагт нийт 129 байдаг.

Мачи Эки нь иргэд нийтийн хамтын ажиллагаа болон орон нутгыг хөгжүүлэх олон төрлийн үйл ажиллагааг явуулдаг.



パンフレット 表紙 (モンゴル語)



まちの駅

まちの駅 (machinoeki) 分布在日本全国各地，其中新潟県 (Niigata 县) 设有 129 处。

まちの駅是为了促进人与人之间的相遇与交流的设施。为了促进地域活性化会联合其他的まちの駅一起举行各种各样的活动。



パンフレット 表紙 (中国語)

Шинээр нэмэгдсэн Мачи
но Экигийн мэдээлэл

1. まちの駅「ごせん桜アロマ工房」
ごせん桜アロマ工場 Gosen Sakura
Арома үйлдвэр
〒956-1765
新潟県五泉市慶宿甲 2712 番地 1
TEL:0250-47-7081
2. あかりの駅 Akari no Eki
(株) あかりテック
〒954-0052
新潟県見附市学校町 2-4-10
TEL:0258-66-2207
3. ほんのちよとワクワクステーション
押野見書店 Сэтгэл хөдөлгөм
Ошиноми номын сан
〒954-0111
新潟県見附市今町 1-9-19
TEL:0258-66-2207
4. まちの駅 レアント Риант Эки
イングリッシュカーテンホテルレアント
〒954-0076
新潟県見附市新幸町 5-10
TEL:0258-66-1177
5. グラフビールの駅
Задгай шар айрагийн Эки
Café ho.cca
〒954-0058
新潟県見附市葛巻 1-9-49
TEL:0258-63-5873



Мачи но Эки нь япон улсын аймаг
сум бүрт байдгаас Нийгата аймагт
нийт 129 байдаг.

Мачи Эки нь иргэд нийтийн
хамтын ажиллагаа болон орон
нутгыг хөгжүүлэх олон төрлийн
үйл ажиллагааг явуулдаг.

Холбоо барих

〒 : 940-0062
新潟県長岡市大手通 1-4-10
アオーレ長岡
TEL : 0258-39-2020
FAX : 0258-39-2900
E.mail/machieki@city.nagaoka
ka.lg.jp

製作:長岡大学鯉江ゼミナール
Гүйцэтгэсэн: Коие Семинар

パンフレット 表面 (モンゴル語)

「Мачи но
эки」 таних
тэмдэг



Ариун цэврийн өрөө, түр
амрах газар



Нийтийн нойл болгон ашиглах
боломжтой, үнэ төлбөргүй

Мачи но экигийн хөтөч

Тухайн байгууллагын
ажилтан найрсаг халуун
дотноор угтан авна.



Орон нутгийн мэдээ мэдээлэл
Гарын авлага, газрын зураг



Дээрх 4-н газраар үйлчлүүлснээр
орон нутгийн мэдээлэлийг авч,
цаашид хөгжүүлэхийн тулд ард
иргэд хамтран үйл ажиллагаа
явуулах газар болж байна.

Санал болгох эки

Мачи но Эки Нагаока их сургууль



Нагаока их сургуулийн гуанз, номын сан,
нийтийн танхим гэсэн газруудыг ашиглаж
болно.

Нагаока их сургууль нь Юүкюузан дүүрэгт
байрладаг учраас түр амрах хэсэг болгож
ашиглаж болно.

〒940-0828
新潟県長岡市鶴山町 80-8
Tel : 0258-39-1600

Fax : 0258-33-8792
Ажлын цаг : 9:00~16:00
Амралт : Хагас бүтэн сайн, баярын
өдөр, шалгалт, өвөл зуны амралт

Мачи но Эки Аорэ Нагаока
иргэдийн хамтын ажиллагааны
Нийгэмлэг



Энд Эчиго Нагаока Мачино Экигийн
нэгдсэн төв болох Иргэдийн хамтын
ажиллагааны төв байрладаг. Хотын
захиргаа болон иргэдийг холбосон
амралтын хэсэгтэй.

Цэнгээнт бүжиг бүжиглэх, хамтдаа
хичээлээ хийх зэрэг бүхий л насны
хүмүүс энд цуглардаг.







〒940-0062
TEL : 0258-39-2020
FAX : 0258-39-2900

Ажлын цаг : 8:00~22:00
Амралт : 12/29~1/3
長岡大手通 1-4-10 アオーレ長岡・西

パンフレット 裏面 (モンゴル語)

<p>新的まちの駅の情報</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. まちの駅「ごせん根アロマ工場」 ごせん根アロマ工場 〒956-1765 新潟県五泉市農宕甲 2712 番地 1 TEL:0250-47-7081 2. あかりの駅 (株) あかりテック 〒954-0052 新潟県見附市学校町 2-4-10 TEL:0258-66-2207 3. ほんのちよつとワクワクステーション 押野見書店 〒954-0111 新潟県見附市今町 1-9-19 TEL:0258-66-2207 4. まちの駅 レアト イングリッシュカーテンホテルレアト 〒954-0076 新潟県見附市新幸町 5-10 TEL:0258-66-1177 5. グラフトビールの駅 Café ho.cca 〒954-0058 新潟県見附市暮巻 1-9-49 TEL:0258-63-5873 	<p>咨询方式</p> <p>〒940-0062 新潟県長岡市大手通 1-4-10 アオーレ長岡 TEL : 0258-39-2020 FAX : 0258-39-2900 E.mail/machieki@city.nagaoka.lg.jp</p>	 <p>まちの駅</p> <p>まちの駅 (machinoeki) 分布在日本全国各地, 其中新潟県 (Niigata 县) 设有 129 处。</p> <p>まちの駅是为了促进人与人之间的相遇与交流的设施。为了促进地域活性化会联合其他的まちの駅一起举行各种各样的活动。</p>
---	--	---

パンフレット 表面 (中国語)

<p> 「まちの駅」的标志</p> <p> 洗手间・休息场所 无论是谁都可以免费利用的洗手间、和休息场所</p> <p> まちの駅引导员 (常驻, 兼职可) 店铺的店员将竭尽全力的为您服务</p> <p> 提供地域情报 为您提供需要的现存的地图或宣传册</p> <p>利用上記 4 点可以更方便的收集地域情报, 为了地域活性和当地的人们互相进行交流的场所。</p>	<p>推荐的まちの駅</p> <p>首先介绍的站点是</p> <p>まちの駅 長岡大学</p>  <p>・長岡大学对外开放学生食堂、图书馆以及学生广场。長岡大学作为悠久山地区的休息场所欢迎前来参观。</p> <p>〒940-0828 新潟県長岡市御山町 80-8 Tel : 0258-39-1600 Fax : 0258-33-8792 营业时间 : 9:00~16:00 休息日 : 周六、周日、节日、入学考试日、暑假、冬假</p>	<p>接下来介绍的站点是</p> <p>ながおかまちの駅</p>  <p>・“ながおかまちの駅”アオーレ(ao-re)長岡市民協働中心拥有越後長岡まちの駅最全的情报网。以及政府办公处, 市民交流平台, 社交舞蹈的学习, 专供人们休息的场所, 并且交通方便, 各个年龄段的学生们会选择在这里学习与交流。</p> <p>〒940-0062 TEL : 0258-39-2020 FAX : 0258-39-2900 营业时间 : 8:00~22:00 休息日 : 12/29~1/3 長岡大手通 1-4-10 アオーレ長岡・西棟 3F</p>
--	---	---

パンフレット 裏面 (中国語)

5.5 成果発表会

(1) 日時

令和2年12月5日(土) 13:00~17:30

(2) 会場

ホテルニューオータニ長岡 NCホール

(3) 参加学生

学年	氏名
4年	大竹一輝、小林萌香、小山陸、智野虎太郎、沼沢純子、 エンヘバト・ソロンゴ、バヤルフ・トゥゴスボルド アルタンチメグ・デルゲルマー、陽凱楓
3年	赤塚倫子、木下歩美、坂本明日香、ニマー・バルジンニヤム 李智超

(4) 発表内容

「まちの駅情報発信拠点『まちの駅』の認知度アップに向けて」

(5) アドバイザー

全国まちの駅連携協議会 関東甲信越運営幹事 中川一男 氏
NPO法人 市民協働ネットワーク長岡 コーディネーター 太田道子 氏

(6) 開催目的

地域活性化プログラムに参加するゼミナールが今年度行った活動等の成果を13分で発表する。

(7) まとめ

今回の成果発表に向けて多くの課題があった。そのひとつが今年度行ってきた活動を効果的にアピールすることである。

中間発表を行った際に、アドバイザーの太田氏から「自分たちの行ってきたことに対してもっと自信をもって発表してほしい」との意見を頂いた。コロナ禍の中でも新駅のパネル作成やボランティア活動などを引き続き行えたことや、アンケート調査活動やInstagramアカウントの開設など新たな取り組みを行えたことは客観的に見ても十分評価できるものであると再確認し、原稿やパワーポイントを改めて練り直した。

編集作業では3年生も含め全員が分担して行い、スライドの演出についても積極的に案を出してもらった。また、読むスピードや発声などを工夫するよう意識して練習を行った。その結果、当日はゼミナール生一同が自信をもって発表することができ、時間もしっかりと13分以内に収めることができた。

成果発表会を通じて感じた今後の課題は、大きく2つある。1つは新しい取り組みのク

オリティを高めていくことだ。太田氏の「インスタグラムの名前を変えたほうが良いのではないか」という意見など、ただ絶やさずに続けていくだけでなく、よりよくしていく工夫を取り入れていく必要があると感じた。2 つ目は夢を持つことだ。中川氏からの質問の中に認知度についての調査やまちの駅の認知度を高める活動を通じていくことで、将来まちの駅をどうしていきたいかというものがあった。我々鯉江ゼミナールは地域活性化のために、まちの駅を発信し地域の魅力を高めることを目標にしている。また、新潟県のまちの駅の魅力を県内に留まらず県外にもその魅力を発信したいと考えている。この夢を実現するためにも、より具体的な目標を考え、手段を模索し続けなければならないと再確認することができた。

今年度の成果発表会は、昨年度の反省点であった活動の成果を数値化し発表に取り組むという点を、アンケートを実施することにより数値化することで解消することができた。来年度以降の成果発表会では、ただ数値化したものを載せるだけでなく、過年度の数値と比較することでまちの駅の魅力発信がどれほど進んでいるのかを示していきたい。

5.6 ウェブページの更新

今年度は新しく加盟したまちの駅の紹介パネルとまちの駅外国語版を追加掲載した。このページは長岡大学のホームページに繋がれているため「まちの駅 長岡大学」内の「新潟まちの駅紹介」からアクセスすることができる。

ここでは鯉江ゼミナール生が平成 19 年度から作成している活動報告書及び県内にある約 130 駅のまちの駅紹介パネルを閲覧できる。

長岡大学(HP) http://www.nagaokauniv.ac.jp/gp_c/zemi25-01/index.html

掲載してある項目の概要は、以下の通りである。

(1) まちの駅とは

まちの駅の概要を紹介すると共に、より詳しいまちの駅の情報が見られる「全国まちの駅連絡協議会」の公式サイト「まちの駅」へのリンク機能が付いている。

(2) 県内まちの駅のリンク

新潟県内でまちの駅ネットワークを形成している「越後長岡まちの駅ネットワーク」「まちの駅ネットワークみつけ」へのリンク機能が付いている。

(3) これまでの活動概要

各年度活動報告書に、新たに昨年度の鯉江ゼミナールの長岡大学地域活性化プログラム報告書を追加した。

(4) 今年度の活動一覧

今年度の活動を一覧で紹介している。新たな試みとして留学生が作成したまちの駅パネルの外国語版を閲覧することができる。

(5) 鯉江ゼミナール公式インスタグラム

こちらでは、今年度開設した鯉江ゼミナールのインスタグラムへのリンク機能が付いている。

(6) まちの駅一覧

今までに作成したパネルに加え、今年度作成したまちの駅のパネルの追加を行った。ここでは、約 130 駅の新潟県内まちの駅パネルを紹介している。地域ごとの検索ボタンから下にあるまちの駅のリストにアクセスできるようになっている。

今年度新たに追加したまちの駅が一目でわかるように、それらには「NEW」と目印を付けている。

5.7 発信活動のまとめ

発信活動では、毎年度行っている活動を別の形で行ったり、新たな試みに挑戦したり、新型コロナウイルスの影響を受けながらも精力的に活動が出来た。パンフレット制作では、留学生の力を借りてモンゴル語版、中国語版のまちの駅パンフレット、そして日本語版と3種類を制作した。留学生とどのようなレイアウトにしたらよいか、日本語は正しいかどうかなどを確認し合う中で、日本人学生と留学生の交流が行えたと考える。現在、中国語版も作成中なので完成次第、まちの駅やながおか市民協働センター長岡市国際交流センター「地球広場」へパンフレットを置いていただけことになっている。

また、今回の「発信」の活動を通してながおか市民協働センターの方々との連携が強化されたと感じる。今年度、悠久祭で行うはずだったパネル展をながおか市民協働センターで開催することができたのは、センターの方との話し合いと意見交換が活発だったからである。その都度ゼミナールの現状、行いたい活動をセンターの方と共有することで、予想以上の協力を得ることができた。これからもながおか市民協働センターの方々とは活動についてこまめに連絡を取り、さらなる連携強化を図っていきたいと考える。

そして、今後の予定としては①まちの駅同士のパネル交換②パネル展の学内開催と外部開催③Instagramの更新継続がある。①まちの駅同士のパネル交換では、まちの駅間をつなぐ仲介者として学生が関わり、まちの駅同士のパネル交換を支援する。②パネル展の外部開催では、ながおか市民協働センターでの開催継続、ネーブルみつけでの開催をしたいと考えている。また、パネルがより多くの人目に留まるよう人が多く集まるような場所を見つけ交渉しながらパネル展の外部開催を継続して増やしていきたい。さらに、長岡大学内でも定期的に学生の目に触れる場所での展示も検討中である。そして、③Instagramの更新継続で若者へ向けた広報活動を続けていきたいと考える。将来的には、Twitterアカウントも開設していく予定である。

6. まとめ

6.1 「三つの軸」の成果

「調査」でも触れたが、今年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響で外部の活動が思うようにできなかった。前期の前半は Slack や Zoom を利用し、なんとか話し合いをおこなっていた。昨年度に予定していた活動が全てできなくなり、その中で学生が学内でできることは何かを真剣に話し合った結果、様々な鯉江ゼミナールの活動の下地を作っていくプロセスとし、まちの駅の認知度調査やインスタグラムアカウントの開設などこれまで手を付けていなかったまちの駅の課題と向き合うことや、次のゼミナール生へと引き継げるような活動をおこなった。

今回は活動を明確化するために、「調査」「情報収集」「発信」の「三つの軸」に分けてまとめた。「調査」では、改めてまちの駅の認知度を確かめることができたと感じる。これまで問題になっていた「まちの駅の認知度の低さ」にスポットを当て、明確に数値化することによって現状の把握をすることができた。「情報収集」では、まちの駅へのヒアリングをおこなうことで新駅が抱える課題を把握することができた。今までは新駅にヒアリングをし、パネルを作成するというルーティーンができていたが、学生自らが深くまちの駅の意見を聞くことによって私たちが把握していなかった課題を共有することができた。「発信」では、新しい活動をいくつも立ち上げられたことが挙げられる。インスタグラムやパネルの外国語版の作成など今までおこなっていなかった活動ができたことで、次の世代に活動の選択肢を提供できたのではないかと考える。

全体の活動を通して、数値など明確に比較できる活動をおこなうことができたと思う。アンケートは次年度から引き続きおこなっていくことによって数値で比較ができるようになった。認知度の上昇や世代ごとの傾向の変化を見られることで、成果発表会や報告書で見の方に分かりやすい資料の作成ができるほか、ゼミナール内で共有できるゆるぎないデータを得られたと言える。また、インスタグラムは「フォロワー」「いいね」などを数値で確認できる。その数値が増えれば増えるほど、情報の拡散力が上がっていくと考えられるため、インスタグラムの数値データも大事なゼミナール活動の指標となるだろう。目につきやすい数値のため、モチベーションにもなり投稿の頻度が上がると嬉しく思う。

また、ゼミナール内での成果となるがゼミナール生で仕事を分担して行うことができたのは大きな成果である。昨年は人によって仕事量に差が出るという問題があった。今年度はその反省を踏まえ、仕事はなるべく分担し大きな仕事があったら助けを求めるということを実践した。その結果、円滑に活動が進むことが多く、ゼミナール生の仲も深まっているように感じた。分担することによって、僅かではあるが見落とししてしまう活動も出てきてしまったため、次年度はより正確に活動の割り振りができればよいと考える。

6.2 来年度の活動

主に三つのことについて行っていこうと考える。一つ目は、まちの駅全国大会の企画考案である。今年度は見附市でまちの駅全国大会が開かれる予定であったが中止を余儀なくされてしまった。来年度の開催を見越し、企画考案を行っていきたいと考える。全国大会には、様々な都道府県にあるネットワークの方々が集まる貴重な機会である。その好機を

逃さず、積極的な意見交換が行える場を提供できたらよいと考える。二つ目は、まちの駅パネルの展示についてである。私たちが作成してきた100を超えるまちの駅パネルを見てもらう機会をより多く作るための様々な試みを考えている。学内にスペースを設けてもらい定期的なパネルの展示を行うことや、それぞれのまちの駅がお互いのまちの駅パネルを交換し合い店頭に飾るといった活動も行っていきたいと考える。三つ目は、今年度の活動の継続である。今年度は前述したとおり、アンケート調査の実施やInstagram開設など様々な新たな試みを行った。また種を絶やさないためにできる限り活動を継続していこうと考える。たとえばアンケート調査は、行うこと自体が「まちの駅」の存在を学生に知ってもらうきっかけにもなり、継続的に数値をとっていくことで学年を経ての認知度の比較ができるようになる。そのため、自分たちの活動の数値目標が立てられるようになったり、その増減がモチベーションとなり活動の反省にも活かせたりと、とても有効になると考える。

地方は少子高齢化や大都市への人口流出など、様々な問題に直面している。そこで、まちの駅が行う活動・イベントを通じて県内外の観光客を多く呼び込み、地域の方々も活気づいてまた新たな活動を始めるという好循環を起こしたいと考える。私たち鯉江ゼミナールはそうした地域の支えになれるように、これからも一丸となって活動を続けていく。

< 謝 辞 >

最後に、お忙しい中、私たちの活動にご協力してくださった「全国まちの駅連絡協議会 関東甲信越運営幹事」の中川一男様、「NPO 法人 市民協働ネットワーク長岡 コーディネーター」の太田道子様を始め、ヒアリング・パネル作成にご協力いただきました「まちの駅」関係者の皆様、まちの駅1分CMの制作にご協力いただきました「FM ながおか 製作部」の山田光枝様、誠にありがとうございました。

また、日頃の活動のサポートをしてくださった長岡大学の教職員の皆様にも厚くお礼を申し上げます。

(以上)

< 参考文献 >

文献1：全国まちの駅連絡協議会「まちの駅 (<http://www.machinoeki.com/>)」令和2年12月閲覧

文献2：国土交通省「道路：道の駅案内—国土交通省」(<http://www.mlit.go.jp/road/Maci-no-Eki/>) 令和2年12月閲覧

文献3：長岡大学「長岡大学地域活性化プログラム新潟まちの駅紹介」(http://www.nagaokauniv.ac.jp/gp_c/zemi25-01/index.html) 令和3年1月閲覧

長岡大学 学生による地域活性化プログラム 各プロジェクト報告書

1. 長岡市撰田屋の魅力を高め、観光客を増やし、地域活性化を図る。
～現状の把握と分析～
生島義英ゼミナール
2. 栃尾地域の PR による活性化：
空き家の再活用による地域振興活動と二十村郷の錦鯉の PR 活動
石川英樹ゼミナール
3. 栃尾地域の PR による活性化：
栃尾繊維業の PR に向けたマスク考案と裂き織りによる商品開発
石川英樹ゼミナール
4. 栃尾地域の PR による活性化：
フォトコンテスト開催による栃尾地区の PR
石川英樹ゼミナール
5. まちの情報発信拠点「まちの駅」の認知度アップに向けて
鯉江康正ゼミナール
6. 十分杯で長岡を盛り上げよう！
－動画で伝えたい 十分杯と長岡の魅力！－
権 五景ゼミナール
7. データエビデンスに基づいた地域をより良くするための提言
～地場産業・観光を中心に～
坂井一貴ゼミナール
8. オープンファクトリーで長岡を活性化！
栗井英大ゼミナール
9. グラスルーツグローバリゼーション
－草の根・地域からの人類一体化の推進－
広田秀樹ゼミナール
10. 商品開発から学ぶ会計と経営
～伝統文化と現代技術の結晶「みどり繭」を巡って～
喬 雪氷ゼミナール

令和2年度 学生による地域活性化プログラム 鯉江康正ゼミナール活動報告書

【発行日】 令和3年3月30日

【発行人】 村山 光博

【発行】 長岡大学

〒940-0828 新潟県長岡市御山町80-8

T E L 0258-39-1600 (代)

F A X 0258-33-8792

<https://www.nagaokauniv.ac.jp/>